

日米の就職活動：大学生に対する比較研究 アリーシャ・キンドレックス

ジョーディン・マートウ

カリフォルニア州立大学モンレーベイ校CSUMB

要旨

ほとんどの大学生が、大学での最後の数年間に自分の将来のキャリアやどのように就職活動をするかについて考え始める。又、大学生が自分の希望するキャリアや選んだ理由について、さまざまな動機づけの要因がある。就職活動はその国の文化や大学が提供するサポートサービスによって、学生が選択するステップに影響すると言える。私達が日本で留学していた時、リカと比べて日本人の学生が経験する就職活動の多くに違いがある事に気づいた。そこで、私達の研究を通して男女の大学生の就職活動の経験に違いがあるかどうかを知りたいと思った。又これらの選択、希望、就職活動の経験がアメリカ人と日本人の学生の間でどのように異なるかを発見するだけでなく、就職活動の過程と、人々が彼らが望むキャリアを追求する動機となるものに焦点を当てた。二つの研究質問に答えるために、日米の大学生59名に質問をする為にオンラインアンケートを使って調査を行った。結果として、日本とアメリカでは、就職活動のプロセスが大きく異なることがわかった。日本人の大学生は通常、三年生から就職活動を初め、就職活動に専念するためにほとんどの単位を三年生の終わりまでに修了する。これは、アメリカ人の学生は通常四年生や卒業後に就職活動を始める事とは大きく異なる。日本の社会には、就職活動のためのより体系的なシステムがあり、学生は通常、皆同時にステップを始めまた完了する。プロセスは異なる場合があるが、日本とアメリカの大学には、学生が就職活動中に使用できる多くの類似した情報サービスがある。また、アメリカ人の学生は私生活の充実の為に、経済的安定に関心を持っていることにも気づいた。一方、日本人の学生は、会社への貢献度や同僚といかに協調していけるかについて懸念している。

はじめに：

私達はこの研究を通して日本とアメリカの男女の大学生の就職活動のについて詳しく知りたいと思った。そして就職活動の過程と、彼らが望むキャリアを追求する動機となるものに焦点を当て調査を行った。結果、日本とアメリカでは、就職活動のプロセスが大きく異なり日本ではアメリカよりも早期に就職活動を行うことが分かった。また、仕事に関しては、アメリカ人の学生は私生活とのバランスや経済的安定に関心を持っており、日本人の学生は、自分の会社への貢献度や同僚といかに協調していけるかについて懸念していることがわかった。

1. 研究の重要性

私たちが日本に留学した際、日本の就職活動はアメリカの就職活動と大きく異なることに気付いた。そのうちの一つは、日本人の大学生は皆同じタイミングで就職活動を始めることだ。日本人の友達と話した際、ほとんどの学生が3年で授業をとり終え、

就職活動により集中していることがわかった。日本は就職活動のシステムに大学が合わせているように見えた。一方でアメリカでは大学卒業後、自分で就職活動をする傾向がある。このキャップストーンを通して、日米の学生はどのようなキャリアを望んでいるか、また大学が学生を支援するサービスが国によってどのように異なるか、について知りたいと思った。

2. 研究質問

1. 日米の大学生は男女別にどのようなキャリアを志望するか。又それはなぜか。
2. 就職活動をする際、日米の大学生はどのようなサポートやサービスを利用するのか。

3. 研究背景

3.1 アメリカと日本の人気のキャリア

2017年のアメリカの労働省の調査によると、少なくとも学士号を必要とする女性に人気のキャリアは、「看護師」、「管理アシスタント」、「小中学校の教師」、などで、男性に人気のキャリアは「経営者」、「ソフトウェア開発者」、などだった。2017年の日本の文部科学省によると、少なくとも学士号を必要とする女性に人気のキャリアは、「事務職員」、「エンジニアリング」などで、男性に人気のキャリアは、「エンジニアリング」、「事務職」などだった。

3.2 アメリカと日本で人気の専攻

2016年のアメリカの全国教育統計センターによると、大学で女性に人気の専攻は、「ビジネス」、「医療・健康専門職および関連分野」、「心理学」で、男性に人気の専攻は、「ビジネス」、「工学技術」、「社会科学と歴史」だった。2017年の日本の文部科学省によると、大学で女性に人気の専攻は、「社会科学」、「人文科学」、「衛生」で、男性に人気の専攻は、「社会科学」、「工学」、「衛生」だった。

3.3 アメリカと日本の大学でのキャリアサービス

アメリカで大学のキャリアサービスは、1970年代の設立以来、技術の進歩と学生と採用担当者とのつながりを組み込むように変化した。最近では、専門的なキャリア開発、雇用、インターンシップの機会、および体験学習をもたらす「カスタマイズされたつながり」が求められている。アメリカにおける大学のキャリアサービスでは「キャリアアドバイス」、「履歴書/カバーレターの書き方のクラス」、「専攻とキャリアのマッチング」、「キャリアの研究を支援する」、「就職フェア」などが例にあげられる (Dey & Cruzvergara, 2014; Cal State Monterey Bay Career Center, 2020)。日本で大学のキャリアサービスは、1900年代初期の米国の職業指導サービスに基づいている。千崎は、日本のキャリア教育は、雇用された学生の数よりもキャリア教育の質に重点を置くべきであると考えている。日本で大学のキャリアサービスの例は「キャリアアドバイス」、「キャリア教育コース」、「インターンシッププログラム・学生指導」、「就職活動指導」、「同窓生ネットワーキング」などだ(Senzaki, 1993; Okayama University, 2020)。

3.4 アメリカと日本の就職活動

アメリカではほとんどの学生が4年目に就職活動を始めますが、大学生がキャリアサービスを求める率は20%に満たない事がわかっている。又、多くの学生が家族や友人などのつながりを利用し、専門的なネットワークを使い、活動を行う。最近、企業は、将来有望な従業員にトレーニングを提供するための労働力開発プログラムに目を向けている(Fadulu, 2018)。又、ピューリサーチセンターによると、仕事を探しているアメリカ人の79%は、仕事を見つけるための方法としてオンラインを主に使用している。日本の大学生は通常、3年生で就職活動を始める。就職活動として、学生は就職説明会に参加したり、エントリーシートに記入したり、グループインタビューや筆記試験の準備をする。就職活動には多くの時間とお金を費やさなくてはならず、説明会のほとんどは平日のため学生はクラスを欠席する必要があるかもしれない (Molin, 2015)。

3.5 就職活動への懸念

2018年には、アメリカ人の卒業生の29%が自分の仕事と生活のバランスが保てるかどうかを懸念しており、より柔軟な仕事を求めている事がわかった。又、卒業生の

33%は、充実した仕事が見つからないと不安に思っていたようだ (Kataria, 2018)。一方で67%の日本人の学生は、自分が与えられた「仕事がやっていけるか」どうか心配だと答え、又、「会社での人間関係、付き合いかた」がうまく行くかどうかを不安に思っている学生が64%だった (Employment Advance Research Center, 2018)。

3.6 アメリカと日本の大学を卒業後の就職率

2018年のアメリカの全国教育統計センターによると、学士号を取得した人の86%が2018年に就職した。2019年の調査によると、新卒者の日本の雇用率は78%だった (Kyodo, 2018, National Center for Education Statistics 2018, New Graduate Employment Rate Rises Again, 2019)。

4. 研究

4.1. 調査の対象

この調査には59名の大学生に参加してもらった。参加者は日本人29名、内男子14人、女子15人と、アメリカ人30名、内男子13人、女子17人である。

4.2. 調査方法

アンケート調査用紙を日本語と英語で作成し、グーグルフォームを使ってデータを集めた。

5. 結果

5.1. 研究質問1：日米の大学生は男女別にどのようなキャリアを志望するか。又それはなぜか。

この研究質問に対し、いくつかの質問をした。

図1：

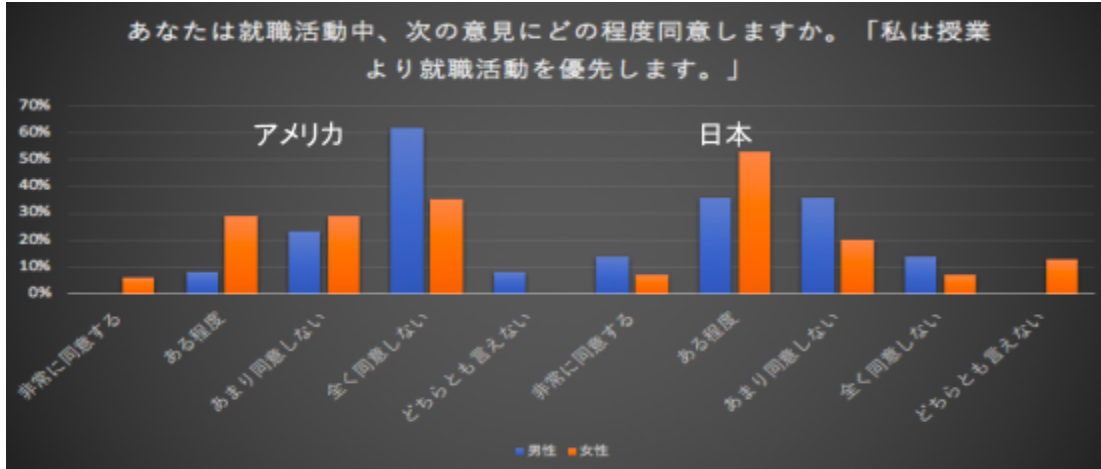
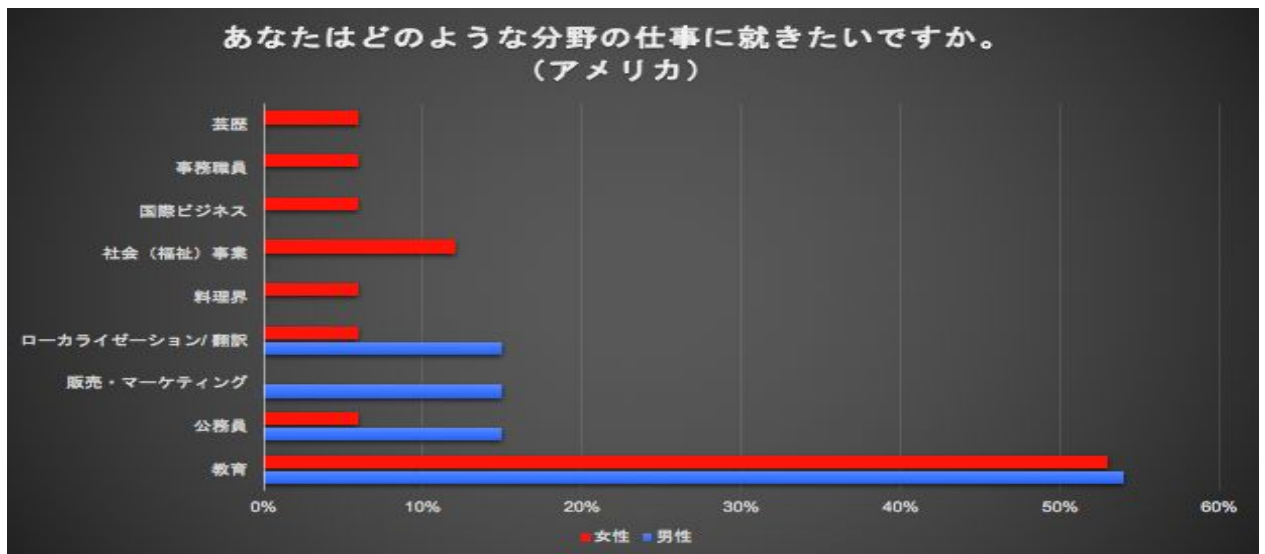


図1からわかるように、日本の男子学生の50%と女子学生の60%が、クラスよりも就職活動を優先することがわかった。一方、アメリカ人の男子学生8%と女子学生35%が同意している。

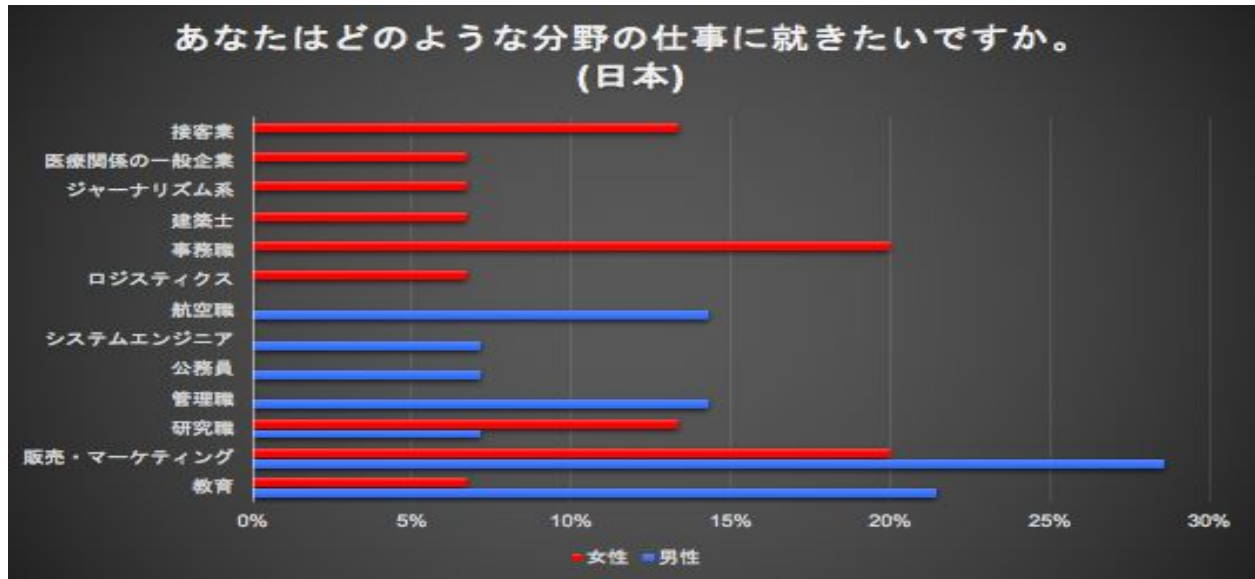
図2:



「あなたはどのような分野の仕事に就きたいですか。」という質問に対して半数以上の

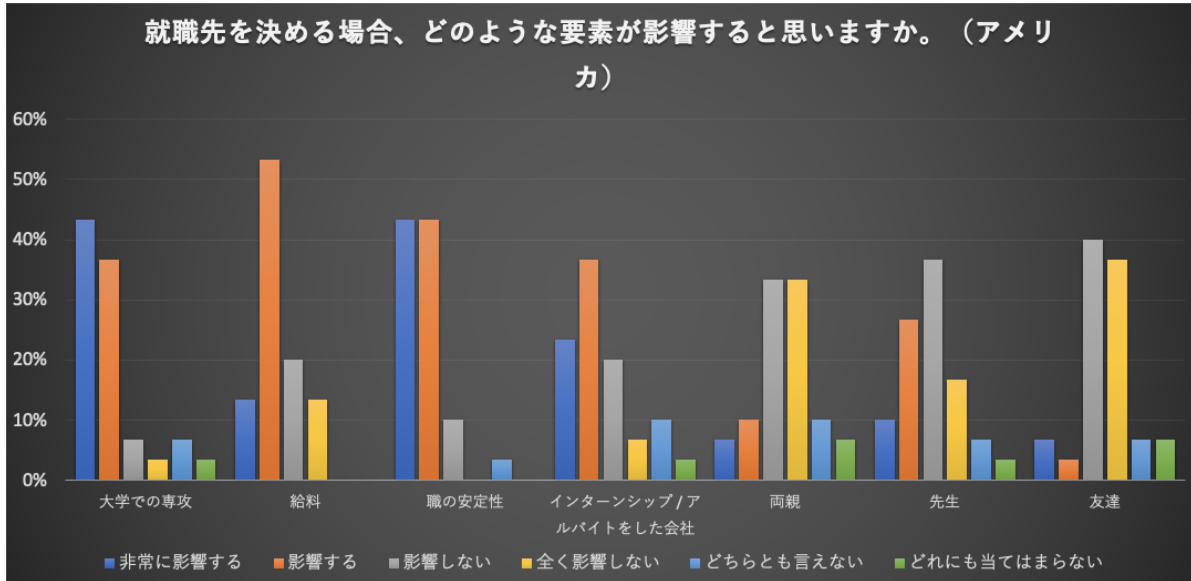
アメリカ人女子学生53%と男子学生54%が、様々な分野の仕事の選択肢がある中、教育関係の仕事に就きたいと考えている。

図3：



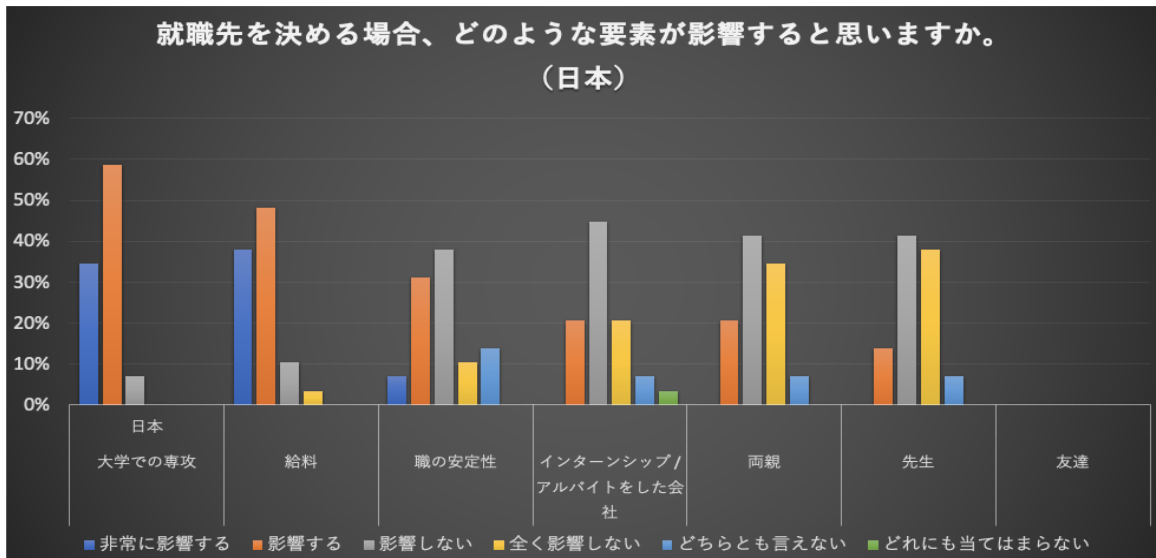
同じ質問に対して日本の女子学生の上位2つは「事務職」と「販売・マーケティング」で、男子学生の上位2つは「販売・マーケティング」と「教育」だった。

図4：



「就職先を決める場合、どのような要素が影響すると思いますか。」という質問には、アメリカの学生の場合、「仕事の安定性」「専攻」「給料」は希望の仕事に影響を与えますが、「親」「教師」「友達」は、ほとんど影響を与えない。

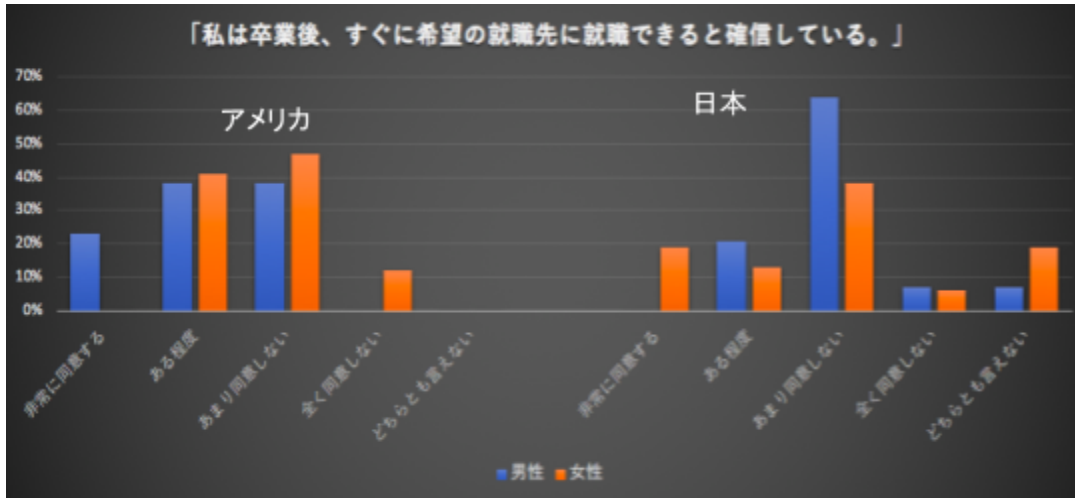
図5 :



日本人の学生の場合、同様に「給料」「仕事の安定性」「専攻」は希望の仕事に影響し

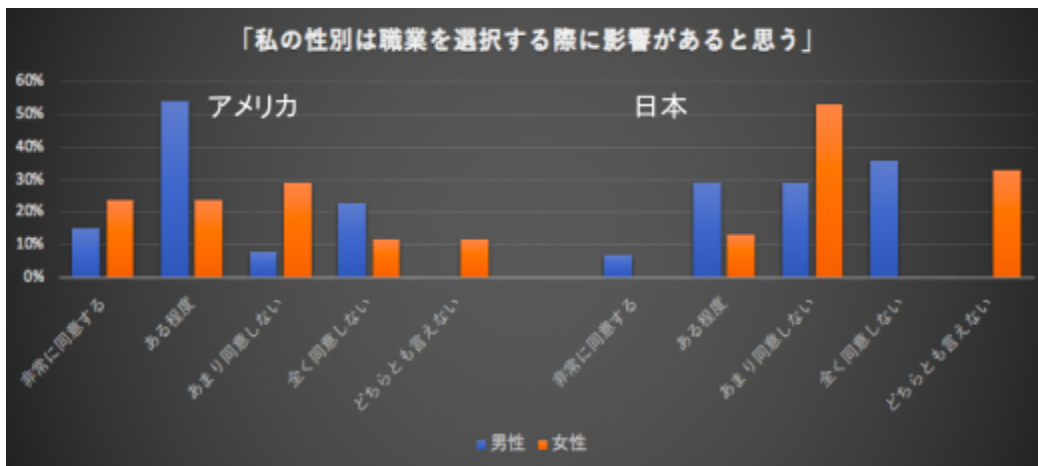
ますが、「親」「教師」「友達」は、ほとんど影響を与えない。

図 6 :



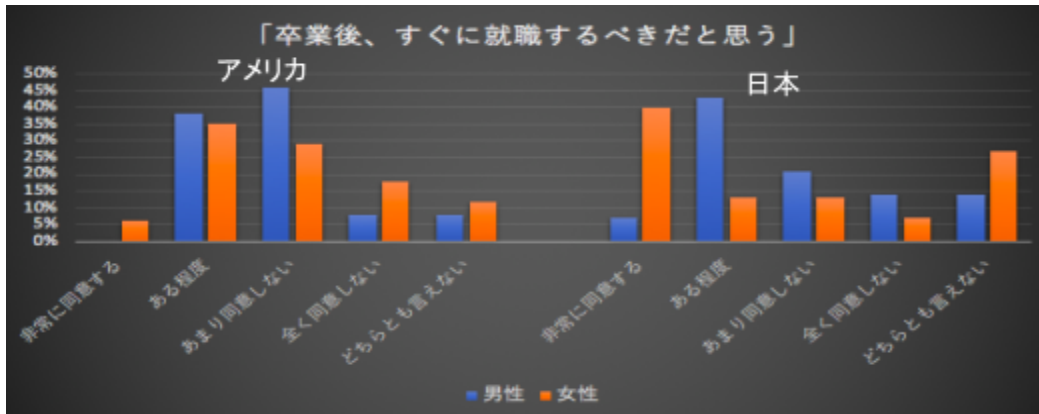
「私は卒業後、すぐに希望の就職先に就職できると確信している」という項目に対し、61%のアメリカの男子学生は自信を持っていると答えましたが、約71%の日本の男子学生はあまり自信がないと答えた。一方で、アメリカ人と日本人の女子学生共に、男子学生に比べて就職できると言う自信がないと言う事がわかった。

図 7 :



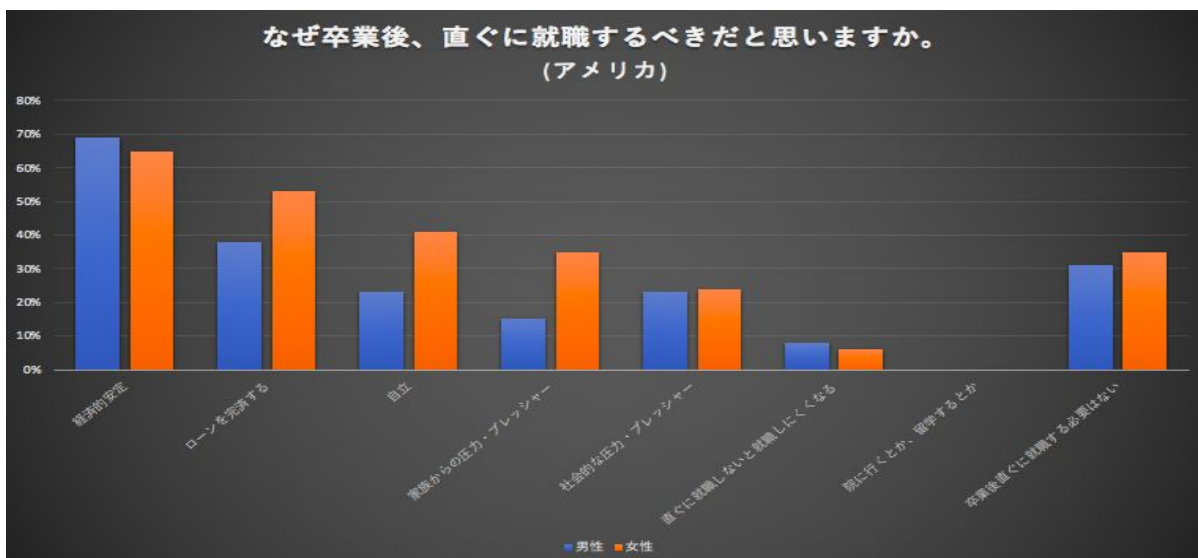
次は「私の性別は職業を選択する際に影響があると思う」と答えたアメリカ人は57%と過半数ですが、日本人は24%にすぎない。

図 8 :



「卒業後、すぐに就職するべきだと思う」という質問に対して、大多数の日本人学生が賛成しているのに対して、多くのアメリカ人学生はこの意見に反対している。

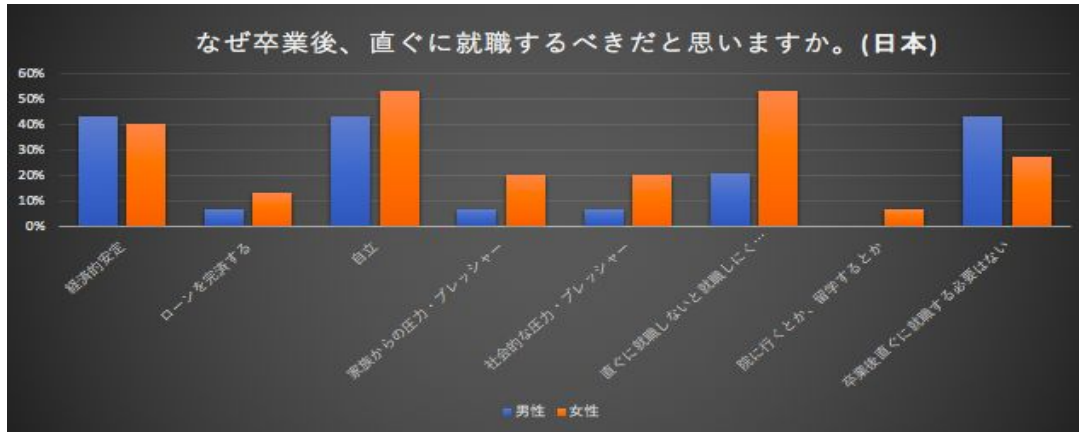
図 9 :



「なぜ卒業後、直ぐに就職するべきだと思いますか」に対して「経済的安定」と「ロー

ンを完済する」事が、アメリカ人の学生にとって重要な要素だと言う事がわかった。

図 10 :



同じ質問に対して、日本人の学生は男性も女性も、「経済的安定」と「自立」が重要だと考えている。又、女性の53%は、卒業した後に働く機会を逃してしまう事を心配している。

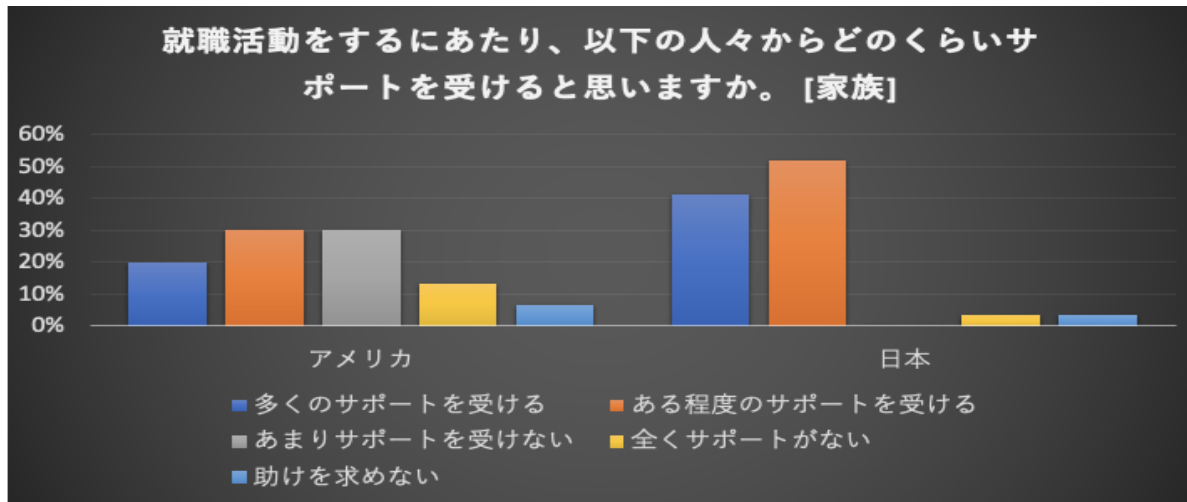
5.2. 研究質問 1 のまとめ

過半数のアメリカ人の学生は教育関連の職に就きたいと考えていますが、日本人の学生に最も人気があった職種はセールス/マーケティングとビジネスだ。日米の学生が卒業後にキャリアを取得したい主な理由は、仕事の安定と給与です。日本人の学生は、「卒業後に就職の機会を逃す事と自立出来るかどうかを心配している。又、日本人はアメリカ人よりも卒業後すぐに就職することが重要だと考えており、就職活動を授業よりも優先している。

5.3. 研究質問 2 : 就職活動をする際、日米の大学生はどのようなサポートやサービスを利用するのか。

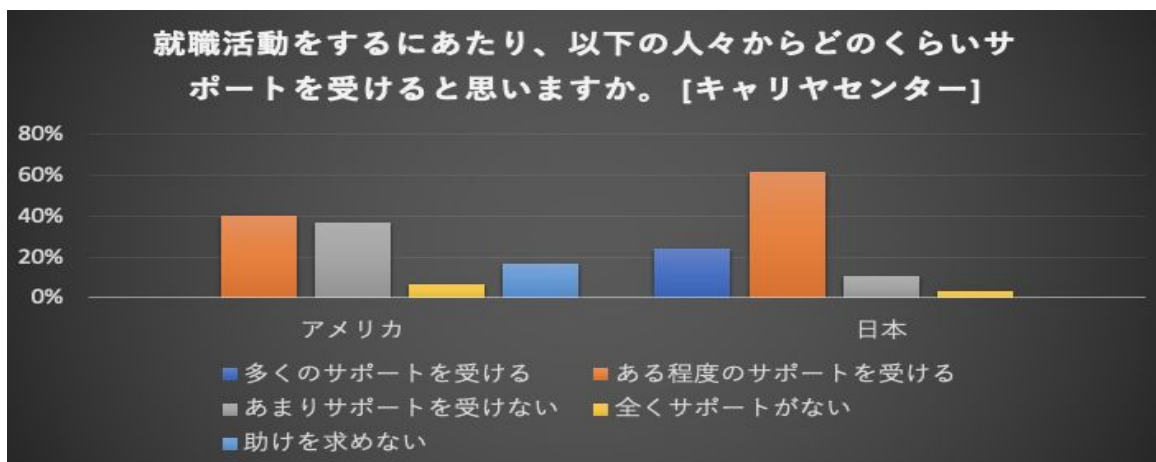
次の6つの質問は同じですが、要素が異なる。

図 11 :



[就職活動をするにあたり、以下の人々からどのくらいサポートを受けるとお考えですか (家族)] という質問に対して、93%の日本人と50%のアメリカ人の学生は、家族から多くの又はある程度のサポートを受けると答えましたが、42%のアメリカの学生はあまり又は全くサポートがないと答えた。

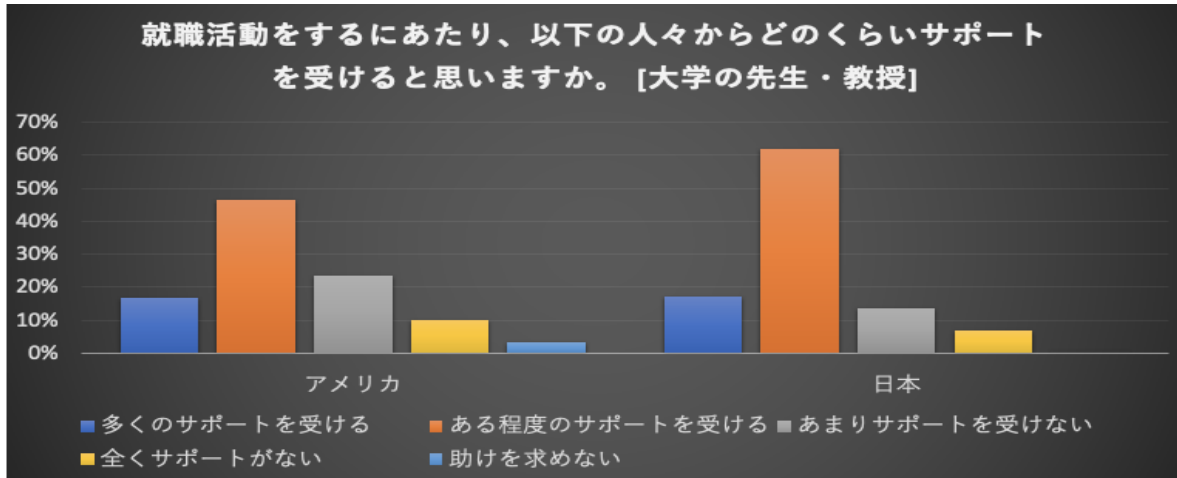
図 12 :



キャリアセンターに対して、83%の日本人の大学生と40%のアメリカ人の大学生は多くのサポートとある程度のサポートを受けると答えた。それに対して37%のアメリカ人の

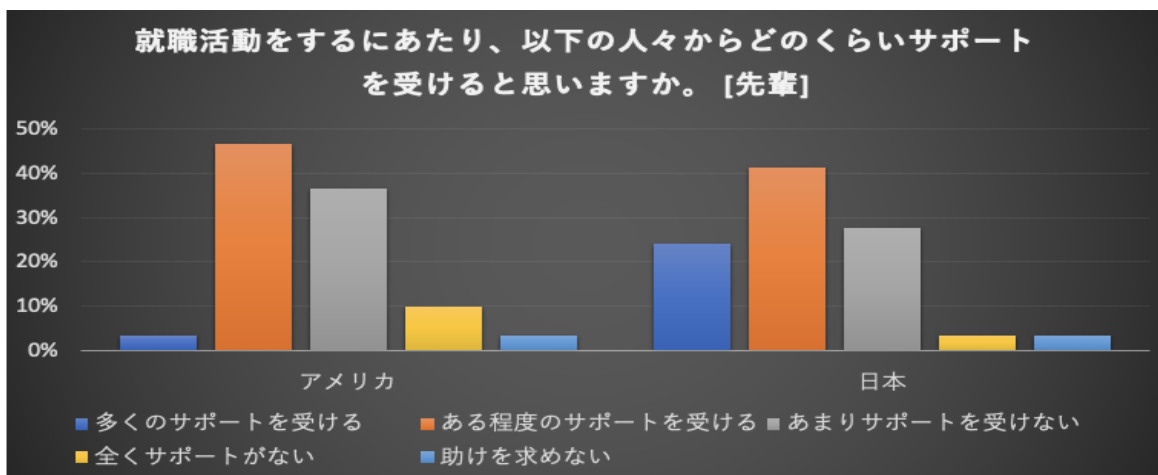
大学生はあまりサポートを受けないと答えた。

図 13 :



大学の先生と教授に対して、79%の日本人の大学生と64%のアメリカ人の大学生は大学の先生からある程度のサポート又は多くのサポートを受けると答えた。

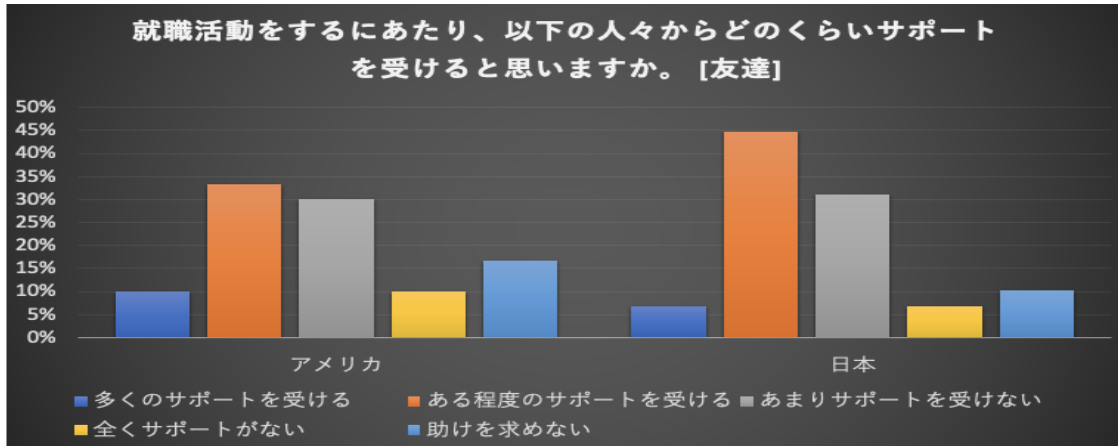
図 14 :



次の要素は先輩と話すことだ。65%の日本人と50%のアメリカ人は先輩の支援を「多く」又は「ある程度」受けると答え、37%のアメリカ人と28%の日本人はあまりサポー

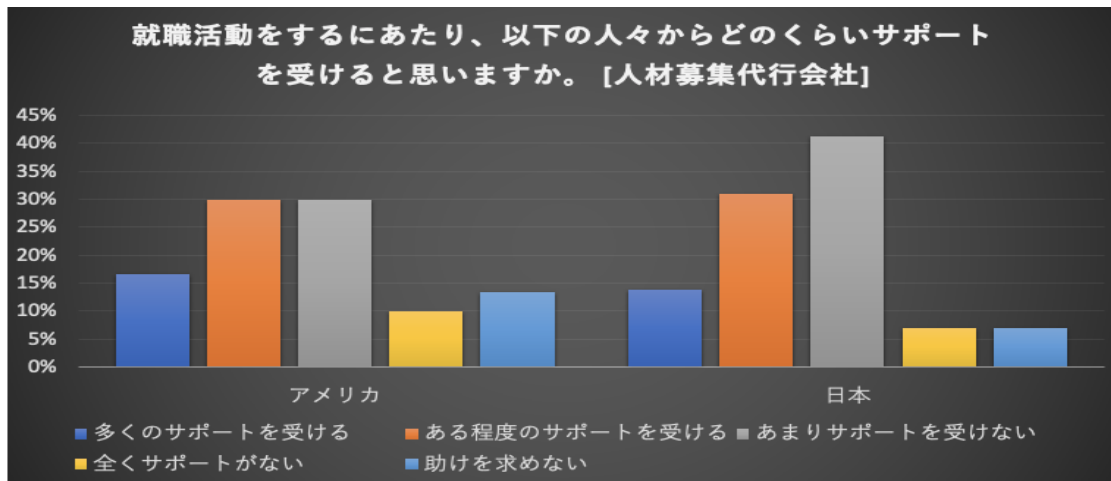
トを受けないと答えた。

図 15 :



それから52%の日本人の大学生と43%のアメリカ人の大学生はある程度又は多くのサポートを友達から受けると答えた。

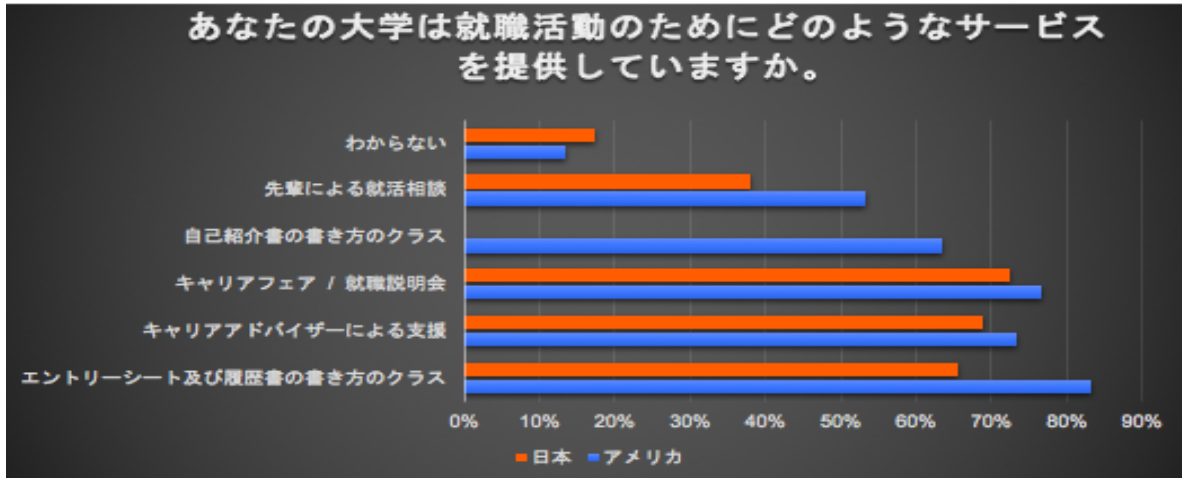
図 16 :



最後の要素は人材募集代行会社だ。この要素に対して、48%の日本人の大学生は人材募集代行会社からあまり又は全くサポートを受けないと答え、30%のアメリカ人の大学生

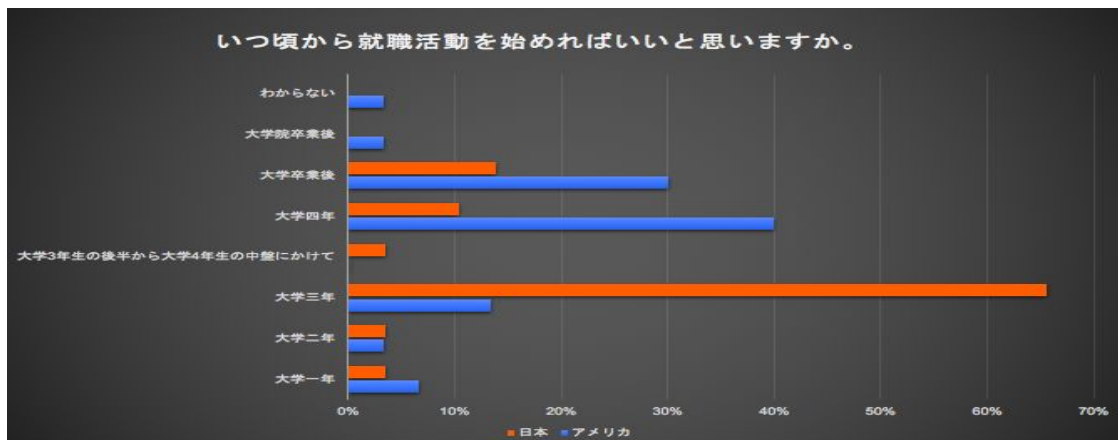
はあまりサポートを受けない又はある程度受けると答えた。

図 17 :



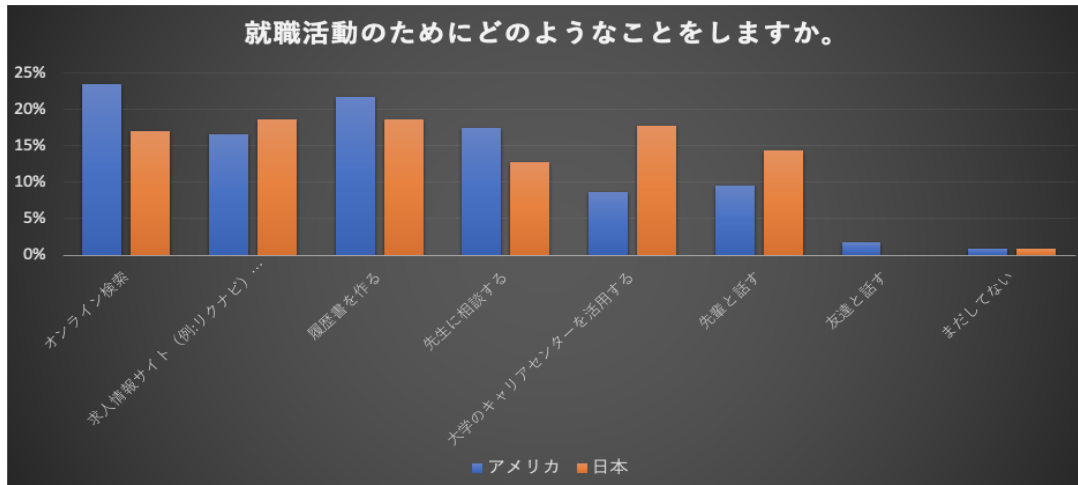
「あなたの大学は就職活動のためにどのようなサービスを提供していますか。」という質問に対して、アメリカの大学も日本の大学も就職説明会、アドバイザーによる支援、履歴書の書き方の授業など、同様のサービスを提供しているようだ。

図 18 :



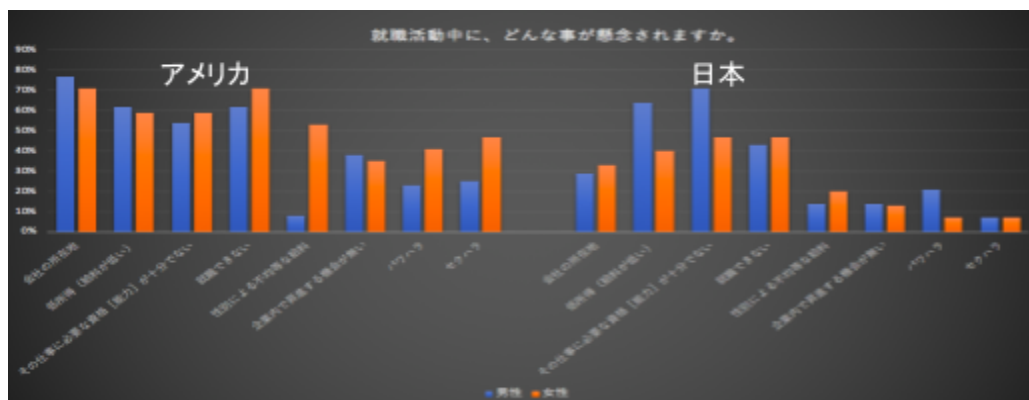
「いつ頃から就職活動を始めればよいと思いますか。」という質問に対して、多くのアメリカ人の学生は就職活動を4年生又は大学卒業後に始めるべきだと考えているのに対し、ほとんどの日本人の学生は大学三年で始めるべきだと答えている。

図 19 :



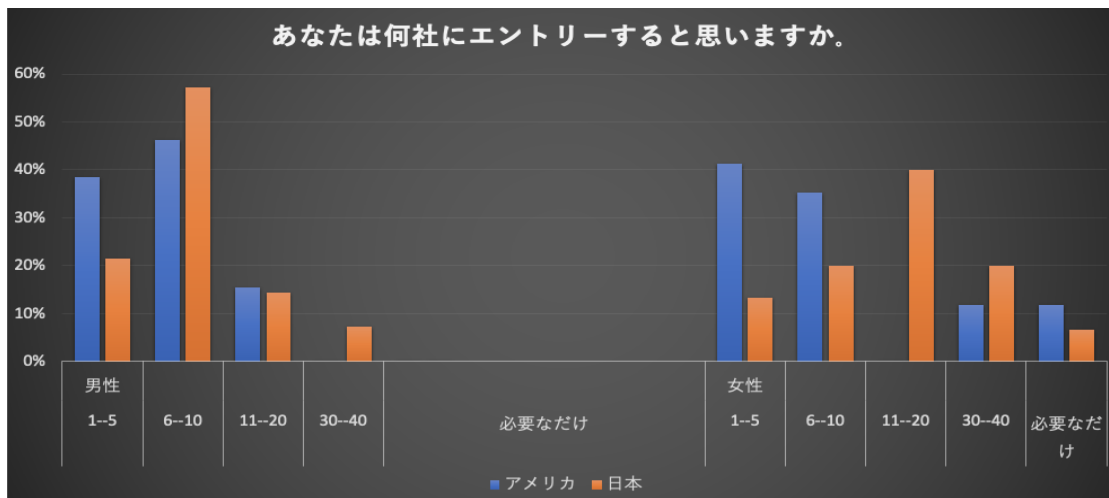
「就職活動のためにどのようなことをしますか。」という質問に対して、ほとんどの日本人とアメリカ人の大学生共に、友達と話すこと以外、就職活動のために、提示した全ての活動を行っている。

図 20 :



「就職活動中に、どんな事が懸念されますか。」という質問に対して、「低所得」と「その仕事に必要な資格〔能力〕が十分でない」と「就職できない」はアメリカ人と日本人の大学生に共通の不安のようだった。70%以上のアメリカ人の学生が別の懸念として「会社の所在地」を選び「パワハラ・セクハラ」を選んだ女性も多かった。

図 21 :



「あなたは何社にエントリーすると思いますか。」という質問に対して、ほとんどのアメリカ人と日本人の男子学生が応募するのは10社以下でしたが、日本の女子学生の67%は11社から40社と言う多くの企業に応募すると答えている。

5.7. 研究質問2のまとめ

ほとんどの日本人の学生はアメリカ人学生よりも大学のキャリアサービスを利用している。日本の学生は3年生で就職活動を始めべきだと強く感じっていますが、アメリカ人は4年生や卒業後が適切だと答えている。アメリカ人と日本人の学生は、「低所得」「能力不足」「就職できない」ことを心配していますが、アメリカ人の女子学生は、企業でのジェンダーによる不平等な扱いについてより心配する傾向がある。過半数の日本人女性は、11社から40社の仕事に応募すると答えたのは卒業後に就職出来ないかもしれないと言う大きな懸念を示している。

6. 結論

日米の就職活動のシステムの違いにより、日本人の大学生はアメリカ人の大学生よりも著しく早く就職活動を始める。日本では就職活動がより重視され、就職先を在学中に確保している。日米の学生共に就きたい職種は、経済的な自立と大学で学んだ知識に関連している。アメリカ人が就職活動の過程で抱えていた大きな懸念は個人の経済的な自立だったのは、ワークライフバランスを大切とするアメリカ人のライフスタイルに関連していると言えるかもしれない。一方で、日本人の学生の懸念は仕事に必要な能力が不十分であることや仕事上の人間関係である事がわかり、企業の一員として自分が会社にどれだけ貢献できるかが、重要になっているようだ。又、日本とアメリカには同様の就職に関する大学のサービスがありますが、使用する頻度と方法に違いがある事がわかった。

7. 研究の限界点と将来の研究課題

今回の調査では、アメリカ人の参加者の女性と男性の割合が同等ではなかった。また、十分なデータ収集と分析のために、より多くの回答者が必要だった。そしてアメリカの就職活動に関する情報や文献を見つけるのは非常に難しかった。次回は、回答者を増やし、また、仕事をしている人を調査して比較してみたいと思う。ジェンダーの問題やその他の社会問題についてさらに調べていきたいと思う。

参考文献

- Career Development*. (n.d.). Cal State Monterey Bay. Retrieved March 24, 2020, from <https://csumb.edu/career>
- Dey, F., & Cruzvergara, C. Y. (2014). Evolution of Career Services in Higher Education. *New Directions for Student Services*, 2014(148), 5–18. <https://doi.org/10.1002/ss.20105>
- Dept of Labor, Women's Bureau, Data and Stats—Employment and Earnings by Occupation-Text Version. (n.d.). Retrieved November 6, 2019, from https://www.dol.gov/wb/occupations_interactive_txt.htm
- Employment Advance Research Center. (2018, June 19). 2018 Graduate University Student Job Hunting Survey Results Report.
- Fadulu, L. (2018, January 20). Why Are College Students Shunning Career Services? Retrieved November 20, 2019, from The Atlantic <https://www.theatlantic.com/education/archive/2018/01/why-arent-college-students-using-career-services/551051/>

- GAUCHAT, G., KELLY, M., & WALLACE, M. (2012). OCCUPATIONAL GENDER SEGREGATION, GLOBALIZATION, AND GENDER EARNINGS INEQUALITY IN U.S. METROPOLITAN AREAS. *Gender and Society*, 26(5),718–747. Retrieved from JSTOR.
- In Bleak Economy, Japanese Students Grow Frustrated With Endless Job Hunt. (2010). *Chronicle of Higher Education*, 56(22), A32–A32.
- Ishikawa, Y., Mizuno, M., & Amundson, N. E. (2009, June). Career awareness of new graduates and recruiting activities by companies in Japan. *Journal of Employment Counseling*, 46(2), 62+. Retrieved from <https://link-gale-com.library2.csumb.edu:2248/apps/doc/A200844486/AONE?u=csumbmain&sid=AONE&xid=63cdfd82>
- Kataria, A., & Perring, L. (2018, April 17). graduate-jobs.com. Retrieved From https://www.graduate-jobs.com/news/13628/What_are_graduatesbiggest_concerns_once_finishing_university
- Ministry of Education, Culture, Sports, and Technology(2015-2017). *Post-School Status of Graduates*. Ministry of Education,Culture, Sports, and Technology.<http://www.stat.go.jp/english/data/nenkan/68nenkan1431-25.html>
- Ministry of Education, Culture, Sports, and Technology (2015-2017).*Universities*. Ministry of Education, Culture, Sports, and Technology.<http://www.stat.go.jp/english/data/nenkan/68nenkan/1431-25.html>
- Molin, Karin. (Spring 2015). Gender discrimination in Japanese job hunting: Listening to the voices of future workers. Stockholm University, Sweden.
- New Graduate Employment Rate Rises Again. (2019, September 12).Retrieved December 18, 2019, from <https://www.nippon.com/en/japan-data/h00536/new-graduate-employment-rate-rises-again.html>.
- Ono, Y. (2000, April 13). Job Hunting in Japan Means Battling Web Traps—Students Get Smart as Firms Try To Weed Out Applicants; Outfoxing Sapporo’s ‘Drama’. *Wall Street Journal, Eastern Edition;New York, N.Y.*, p. B1.
- Record 98% of Japan's university graduates land jobs amid recovering economy. (2018, May 18). *Thejapantimes*. Retrieved From <https://www.japantimes.co.jp/news/2018/05/18/business/economy-business/record-98-japans-university-graduates-land-jobs-mid-recovering-economy/#.XpImB1NKiqA>
- Senzaki, T. (1993). Career Education in Japan: Its Current Status and Condition. *The Career Development Quarterly*, 41(4), 291–296. <https://doi.org/10.1002/j.2161-0045.1993.tb00402.x>
- "Shūkatsu": How Japanese Students Hunt for Jobs. (2019, March 6). Retrieved from <https://www.nippon.com/en/column/g00365/shukatsu-how-japanese-students-hunt-for-jobs.html>.
- Smith, A. (2019, December 31). Job seekers find internet essential for employment search. Retrieved from <https://www.pewresearch.org/internet/2015/11/19/1-the-internet-and-job-seeking/>
- The Condition of Education—Population Characteristics and Economic Outcomes—Economic

- Outcomes—Employment and Unemployment Rates by Educational Attainment—Indicator May (2019). (n.d.). Retrieved October 29, 2019, from https://nces.ed.gov/programs/coe/indicator_cbc.asp
- The NCES Fast Facts Tool provides quick answers to many education questions (National Center for Education Statistics). (n.d.). Retrieved October 23, 2019, from <https://nces.ed.gov/fastfacts/display.asp?id=561>
- Watanabe, K. (1994). Japanese Women's Studies. *Women's Studies Quarterly*, 22(3/4), 73–88. Retrieved from JSTOR.
- Yano, M. (1997). Higher Education and Employment. *Higher Education*, 34(2), 199–214. Retrieved from JSTOR.
- 裕一 古市. (2017, September 22). 大学生の大学進学動機と価値意識. Retrieved from https://www.jstage.jst.go.jp/article/career/14/0/14_KJ0000571848/_article/-char/en#citedby-wrap.